

5 本県の学力向上施策

学力向上には、学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点による不断の授業改善が必要です。毎時間の授業が児童生徒にとって魅力があり、着実に学力を伸ばすものにするために、教員個々の指導力向上に向けた取組に加えて、校内研修等を通じた学校全体の組織的な取組が重要です。県教育委員会では、魅力ある授業の実現に資するよう、次のような取組を行っていますので、各学校・教職員は十分に活用してください。

(1) 情報提供～魅力ある授業を行うための指針等～

ア 学びの羅針盤（改訂版）

授業づくりの指針として、校内研修等で活用することが効果的です。

イ かがしま学力向上支援Webシステム

思考力、判断力、表現力等を問う問題、各地区からの教育情報（各地区作成の評価問題等）が掲載されています。

本システムから、授業改善に役立つ、以下のような資料をダウンロードすることができます。

- ・ 評価問題（思考力、判断力、表現力等を問う問題）
- ・ 学びの羅針盤
- ・ 各地区からの教育情報（各地区作成の評価問題等）

ウ 総合教育センターWebサイト

「かがしま学びの地図」（児童生徒向けの動画教材をはじめとする学習コンテンツや教職員向けの研修コンテンツを掲載）をはじめとする最新資料が掲載されています。また、教育センター内には、持ち帰り可能な指導資料もあります。

さらに、教育センターでは、カリキュラムセンター機能の拡充にも取り組んでおり、来所者への研究・研修支援に関する指導助言を受けることができます。

エ 県教育委員会ホームページ

学びの羅針盤、鹿児島学習定着度調査結果報告書、各教育事務所からの情報や教育に関する様々な資料等が掲載されています。

小学校5年生用

「学力の課題に迫る！」評価問題一覧表（単元・領域対応表）

県教育委員会では子供たちの学力を向上させるため、長所により多く伸ばしてほしいとの願いから、思考力・表現力を高める問題やかがしま学力向上支援Webシステムに掲載しています。これらの問題は、県内各学区の先生方の協力を得ながら作成したものです。今後も、先生方の利便性を考慮し、Webシステムに掲載した問題を各校に広く配布し、活用していただきます。

以下はC/Dの取組内容一覧ですので、各校の課題解決のための積極的な活用をお願いします。

から国語				から算数			
問題番号	対 応 単 元	チェック(実施日)	問題番号	対 応 単 元	チェック(実施日)		
Q1	話すこと・聞くこと(1)		Q1	小数と整数①			
Q2	話すこと・聞くこと(2)		Q2	小数と整数②			
Q3	書くこと(1)		Q3	分数のかけ算			
Q4	書くこと(2)		Q4	小数のかけ算とわり算①			
Q5	読むこと(1) (文学的文章)		Q5	小数のかけ算とわり算②			
Q6	読むこと(2) (説明的文章)		Q6	分数のわり算			
Q7	読むこと(3) (説明的文章)		Q7	倍数と約数①			
Q8	読むこと(4) (詩)		Q8	倍数と約数②			
Q9	読むこと(5) (新聞)		Q9	面積①			
			Q10	面積②			
			Q11	体積			
			Q12	単位量当たりの大きさ①			
			Q13	単位量当たりの大きさ②			
			Q14	正多角形と円			
			Q15	図形の角			
			Q16	比例			
			Q17	割合とグラフ			
			Q18	数量関係・数と計算			
			Q19	単位量当たりの大きさ③			

想定される活用の場
 ① 授業のまとめや発展的な取組の場での活用
 ② 長期休業中の課題や自習の課題としての活用
 ③ 試験問題や単元末の評価問題としての活用 など

年間を通し計画的・体系的に活用していただくことを期待しています。

※ 小5・中1・中2の一覧表及び算数課題に特定した課題の中から、令和元年度「鹿児島学習定着度調査」（令和2年1月実施）に同一又は類似の問題を一部抽出予定です。

※ 各課題の詳細な問題やWebシステムに追加掲載し、発表させていただきますので、そちらも是非ご活用ください。（自校のID、パスワード）
 URL: <https://www.ekashien.jp/admin/login-sc> ID: パスワード:

かがしま学力向上支援Webシステム



総合教育センターWebサイト

かがしま学びの地図

カテゴリ
 「学びの地図」について
 動画教材
 国語
 社会・地理・歴史・公民
 算数・数学
 理科
 音楽
 図画工作・美術
 保健体育(健康)

学びの地図
 1-1 国語 全学年
 1-2 国語 水・土・3学年
 1-3 国語 水・土・3学年
 1-4 社会 水・土・3学年
 1-5 社会 水・土・3学年
 1-6 社会 水・土・3学年
 1-7 社会 水・土・3学年
 1-8 社会 水・土・3学年
 1-9 社会 水・土・3学年
 1-10 社会 水・土・3学年
 1-11 社会 水・土・3学年
 1-12 社会 水・土・3学年
 1-13 社会 水・土・3学年
 1-14 社会 水・土・3学年
 1-15 社会 水・土・3学年
 1-16 社会 水・土・3学年
 1-17 社会 水・土・3学年
 1-18 社会 水・土・3学年
 1-19 社会 水・土・3学年
 1-20 社会 水・土・3学年
 1-21 社会 水・土・3学年
 1-22 社会 水・土・3学年
 1-23 社会 水・土・3学年
 1-24 社会 水・土・3学年
 1-25 社会 水・土・3学年
 1-26 社会 水・土・3学年
 1-27 社会 水・土・3学年
 1-28 社会 水・土・3学年
 1-29 社会 水・土・3学年
 1-30 社会 水・土・3学年
 1-31 社会 水・土・3学年
 1-32 社会 水・土・3学年
 1-33 社会 水・土・3学年
 1-34 社会 水・土・3学年
 1-35 社会 水・土・3学年
 1-36 社会 水・土・3学年
 1-37 社会 水・土・3学年
 1-38 社会 水・土・3学年
 1-39 社会 水・土・3学年
 1-40 社会 水・土・3学年
 1-41 社会 水・土・3学年
 1-42 社会 水・土・3学年
 1-43 社会 水・土・3学年
 1-44 社会 水・土・3学年
 1-45 社会 水・土・3学年
 1-46 社会 水・土・3学年
 1-47 社会 水・土・3学年
 1-48 社会 水・土・3学年
 1-49 社会 水・土・3学年
 1-50 社会 水・土・3学年
 1-51 社会 水・土・3学年
 1-52 社会 水・土・3学年
 1-53 社会 水・土・3学年
 1-54 社会 水・土・3学年
 1-55 社会 水・土・3学年
 1-56 社会 水・土・3学年
 1-57 社会 水・土・3学年
 1-58 社会 水・土・3学年
 1-59 社会 水・土・3学年
 1-60 社会 水・土・3学年
 1-61 社会 水・土・3学年
 1-62 社会 水・土・3学年
 1-63 社会 水・土・3学年
 1-64 社会 水・土・3学年
 1-65 社会 水・土・3学年
 1-66 社会 水・土・3学年
 1-67 社会 水・土・3学年
 1-68 社会 水・土・3学年
 1-69 社会 水・土・3学年
 1-70 社会 水・土・3学年
 1-71 社会 水・土・3学年
 1-72 社会 水・土・3学年
 1-73 社会 水・土・3学年
 1-74 社会 水・土・3学年
 1-75 社会 水・土・3学年
 1-76 社会 水・土・3学年
 1-77 社会 水・土・3学年
 1-78 社会 水・土・3学年
 1-79 社会 水・土・3学年
 1-80 社会 水・土・3学年
 1-81 社会 水・土・3学年
 1-82 社会 水・土・3学年
 1-83 社会 水・土・3学年
 1-84 社会 水・土・3学年
 1-85 社会 水・土・3学年
 1-86 社会 水・土・3学年
 1-87 社会 水・土・3学年
 1-88 社会 水・土・3学年
 1-89 社会 水・土・3学年
 1-90 社会 水・土・3学年
 1-91 社会 水・土・3学年
 1-92 社会 水・土・3学年
 1-93 社会 水・土・3学年
 1-94 社会 水・土・3学年
 1-95 社会 水・土・3学年
 1-96 社会 水・土・3学年
 1-97 社会 水・土・3学年
 1-98 社会 水・土・3学年
 1-99 社会 水・土・3学年
 1-100 社会 水・土・3学年

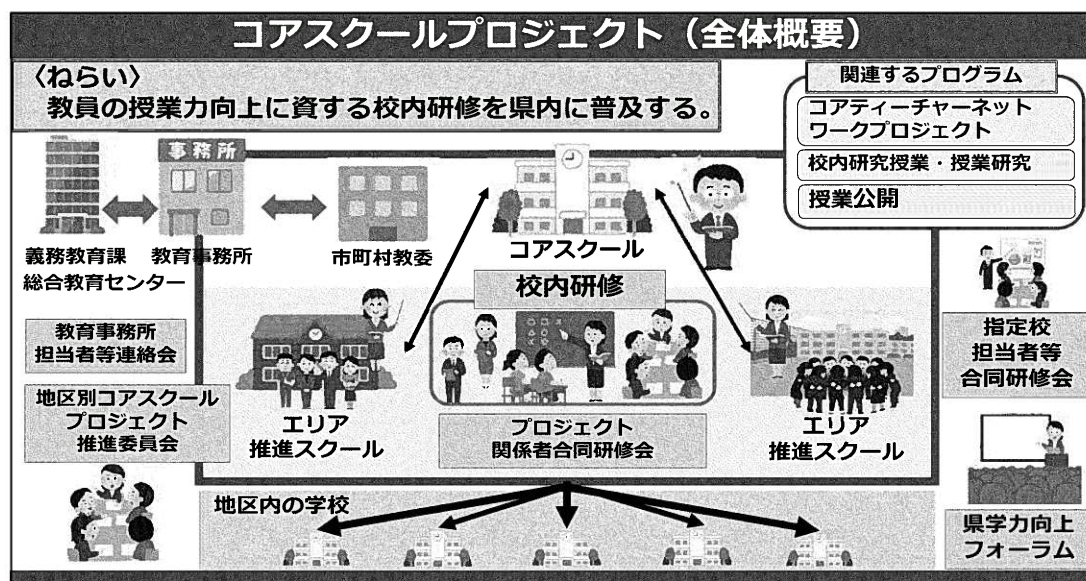
総合教育センターWebサイト「かがしま学びの地図」

(2) 実践的な授業改善の取組

ア コアスクールプロジェクト

本プロジェクトは、授業改善に先進的に取り組む学校を指定し、授業づくりに効果的な校内研修等、学力向上に向けた組織的な取組を支援するとともに、教育事務所による地域の特性に応じたプロジェクト指定校（コアスクール及びエリア推進スクール）の実践を県下に広げることによって、県内の教員の授業力及び児童生徒の学力の向上に資する取組です。

プロジェクト指定校の公開授業に参加したり、自校の校内研修の進め方について相談するなどして、先進的な取組を積極的に吸収してください。



イ コアティーチャーによるモデル授業

教育事務所ごとに小・中学校の教員によるコアティーチャープロジェクトチームを設置し、モデル授業づくり等に取り組んでいます。取組の成果物は、かごしま学力向上支援Webシステムにもアップしていますので活用してください。

ウ 授業公開・各教育事務所の学校訪問等

中学校に対しては、3年に1回の授業公開を要請しています。また、各教育事務所においては定期的に学校訪問を実施して、授業改善等の指導助言を行っています。

(3) 研修の充実

ア オープンサポートフォーラム等

教育事務所では、コアティーチャーネットワークプロジェクトのメンバーや授業サポートプロジェクトに関わる教員を含め、オープンサポートフォーラムなど多くの教員が参加できる地区の教科別研究会を開催しています。

イ 総合教育センターの研修及び土曜講座

短期研修講座に加え、学校や教員の研修支援を行っています。また、希望する教職員のニーズに応えるために、希望研修として土曜講座も実施しています。

ウ 教職員の研修の手引

研究と修養のための実践的研修の初任者用手引書である。県総合教育センターWebサイトから自由にダウンロードできます。



教職員の研修の手引き

(4) 児童生徒の学習状況の見取り及び課題の把握

学力向上に係るP D C Aサイクルを確立するに当たっては、学力の実態及び課題を把握し、その対応策、年間を通じた学力向上の取組の流れを全教職員で共有するとともに、定着が不十分な問題への補充指導を行い、確実な定着を見届ける授業改善を実施していくことが大切です。

その際、「かごしま学力向上支援Webシステム」や「学びの羅針盤」、コアスクールプロジェクト等の県教委の学力向上策を自校のP D C Aサイクルに積極的に組み入れてください。



「学びの羅針盤」(p.21)

ア 全国学力・学習状況調査結果を踏まえた分析資料の作成及び配布

各学校においては、以下の点を確認しつつ、P D C Aサイクルに基づき、自校の取組の検証改善に役立てる必要があります。

- ・ 全教職員で、調査問題を解いているか。
- ・ 児童生徒の学力や学習状況調査を把握・分析しているか。
- ・ 令和3年8月に配布された報告書(文部科学省)等を活用しているか。
- ・ 県教委・市町村教委が作成する分析資料を活用しているか。
- ・ 学校全体として、具体的な改善策を検討しているか。

イ 鹿児島学習定着度調査

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、課題解決に取り組むとともに、一貫した指導と学力向上のP D C Aサイクルを充実させることで児童生徒の学力向上を図ることを目的としています。

(5) 演習問題 (Web掲載問題, 諸調査, 公立高等学校入学者選抜学力検査)の活用

過去の学力調査問題や高校入試問題等の問題を教科、単元等ごとに分類整理しています。各問題の出題意図を分析したり、授業やテストに生かしたりするなど、積極的に活用してください。

特集2 「演習問題」の活用による授業改善

※ ここでの「演習問題」とは、過去の学力調査問題や高校入試問題等のことです。

県教委が「演習問題」の積極的な活用を推進するため、次の理由があります。

「演習問題」には、**育成が求められる資質・能力が具体化されている。**

単元が下の領域において効果的に活用できる「演習問題」は、学習指導要領で育成が求められる資質・能力を具体的に示しているものです。このことから、全ての児童生徒が「演習問題」に活用できることを目指し、教師は活用する必要があります。

また、「演習問題」を参考に、教師自身が学習指導のためのテストやテスト等の演習問題を作成することは、教師がより深く育成すべき資質・能力を理解することになります。

「演習問題」の活用は、授業改善につながる。

「しっかりと授業しているはずなのに、調査等で児童生徒がつかまっている」とは、普段の授業が知識等の一部の学力のみを付けるものになっており、資質・能力が十分に育成されていないことを示しています。演習問題は、今求められる資質・能力を加える問題が多く出題されています。このような方は、授業で確実に付けていかなければならない力であり、普段の授業をそのような授業に転換していく必要があります。そのための授業改善のヒントは、「演習問題」を分析し、活用することから得ることがあります。

例えば、以下のような方法が考えられます。

- 扱われる題材やテーマをそのまま授業に取り入れる。
- 問題の中にある、子供たちが自ら課題と向き合い、解決する場面を授業に取り入れる。
- 問題の中の問いを、授業中の発問に使う。 など

なお、児童生徒が調査問題を解けない状態が続くという場合は、教師としても、できない問題を得意な児童に教えておくことが大切です。

「R2鹿児島学習定着度調査結果報告書」(p.8)

(6) 英検 I B A 及びスタディギアの活用

全中学生を対象に、聞くことと読むことの力を測るテストを年1回実施しています。あわせて、タブレット端末やパソコンを使用して、中学生が自分のペースで英語学習を進めるアプリ「スタディギア」の活用を勧めています。

今回の全国学力・学習状況調査では、県内の多くの学校において演習問題の活用を通じた学力向上の取組が図られ、小・中学校ともに改善が見られつつあります。また、児童生徒の学習状況に着目した授業研究を行うための校内研修体制の見直しを行う取組も広がりつつあるところです。今後も、これらの取組を授業改善の取組と関連付け、毎日の授業を通して確かな学力の定着を図っていきましょう。